



平成28年通常総代会開催

平成28年3月23日午前10時両総土地改良区会議室において、総代163名出席のもと農林水産省関東農政局並びに千葉県農林水産部より多数の来賓にご臨席いただき、通常総代会を開催いたしました。

理事長挨拶 〈要約〉



理事長 森 英介

平成28年度の農業農村整備事業関連予算につきましては、削減前の平成21年度予算の水準にだいぶ近づき、土地改良の復活が実現できる数字と、言えるように成ってまいりました。また、TPP関連対策につきましては、既存の農林水産予算に支障を来さないよう、政府全体で責任を持って毎年の予算編成過程で確保することといたしております。

現在両総管内で実施中の、県営かんがい排水事業や基盤整備事業、また、28年度から実施予定のストックマネジメント事業など早期完成に向け、予算獲得に努めていきたいと考えております。国営事業により完成致しました幹線用水路をさらに有効利用出来るよう、県営支線のパイプライン化など、引き続き事業展開しなければならないと思いますので、本日お集まりの関係各位の更なるご協力をお願いするところでです。

また、各地区で開催されました地区総代協議会に於いてご説明したとおり、賦課基準や報酬の見直し、また平成30年4月の3支所体制への移行と合わせ、総代の皆様方の格別のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

ご来賓挨拶 〈要約〉



農林水産省関東農政局

利根川水系土地改良調査管理事務所 次長 相場 千秋様

農政を取り巻く状況を申し上げますと、平成28年度の農業農村整備関係予算につきましては大幅な伸びとなって、補正予算とあわせれば約1,200億円増の約4,800億円となっており、大幅に削減された以前のものと比べますと8割ほどの水準にまで回復してきたところでございます。

これから重要なことは、特に国営事業を実施した地区においては、事業による具体的な効果を広く説明していく必要がございます。両総地区につきましては平成26年度に事業が完了し、優良且つ大規模な営農が行われており、また、国営造成施設の適切な維持管理にご尽力をいただいております。引き続き農政のモデルとなる取組に力を入れていただくようお願い申し上げます。

利根調といたしましては、現場と農政を繋ぐ「土地改良区コミュニケーション」といたしまして私どもの職員が定期的に改良区に伺い、色々と意見交換をさせていただいております。引き続き、地域の皆様方との連携を密にし現場の実情に即してご要望に出来るだけの確にお答えできるよう業務運営に努めて参りたいと考えております。



千葉県農林水産部 次長 井上 俊也様

本県農業を取り巻く環境が米価の下落、又は担い手の高齢化、耕作放棄地の増加など大変厳しい状況にある中、県といたしましては、国の交付金などを活用するとともに、経営体の規模の拡大を図るため農地中間管理機構の体制を強化するとともに耕作放棄地の再生の支援や土地改良事業の予算を拡充し農地の集積等を進めて参ります。

また、米価の安定のため飼料用米への転換に対する助成単価を2倍に引き上げるとともに、大規模化によるコスト削減を促進させるため、共同乾燥施設に対する助成の拡充などに取り組んで参ります。

両総用水の関連事業につきましては、かんがい排水事業の両総茂原南地区、両総南条支線地区、両総多古支線地区が現在実施中であり、経営体育成基盤整備事業の森戸地区が今年度、採択されました。またかんがい排水事業両総茂原西部地区、及び基幹水利施設ストックマネジメント事業両総松尾支線地区につきましても来年度の採択を目指しまして手続きを進めているところでございます。

皆様におかれましては、こうした県の施設、事業の推進に更なるご理解、ご協力を賜りますとともに地域農業の将来のため積極的な活動を期待いたします。